



人権保育から、 保護者支援を考える

もりもと く に こ
森本 宮仁子 さん (社会福祉法人聖和共働福祉会)
大阪聖和保育園事務局長



人権保育専門講座5では、森本 宮仁子さんに、「人権保育から、保護者支援を考える」と題して、ご講演いただきました。

保育現場での様々な実践経験をもとに、子どもの人権を大切にしたい保育、保護者の思いを大切にしたい保護者支援などについてワークショップを交えながらお話しいただきました。

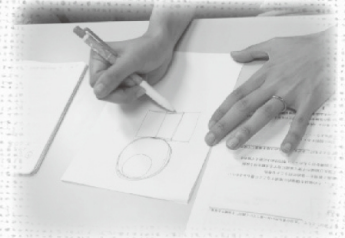
「他者実現愛」…あなたとして育っていくことを愛する

保育者の子どもへの思いの在り方は、重要な人的環境となります。保育者の価値観をもとに「いつも精一杯頑張っているね」「よく気がつくええ子やわ」と褒めたり、「なんで話を聞いてくれへんのやろ」「ちっとも言うとおりにしてくれへん」と、保護者や家庭にその原因を押しつけたりしてしまうことがあります。これは保育者の「価値愛」に基づく保育です。

私たちは、家族や地域も含めた環境のなかで、育ちたいと思っている方向に育っていくということを支援する「他者実現愛」を大切にしなければなりません。日々保育をおこなうなかで、様々な課題もみえてきます。その子が今こうしていることの意味、なぜこの子がしんどい思いをさせられているのかということについて考え、どう援助していけるのか、それを考えていくのが保育者の役割です。

傾聴…「私」が変わると、「相手」が変わる

説明者の話を聞き、その通りに図形を紙に描くというワークを2回おこないました。1回めは参加者からの質問や聞き返しはしないルールで、2回めは参加者の質問や聞き返しに説明者が丁寧に答えながらおこないました。結果は、2回めの方が正確に図形を描けた人の割合が高くなりました。



習慣として、人の話を聞き返すことはよくないこと、と覚えてしまっていないでしょうか。問いたずらではなく、相手をかけがえのない存在として尊重し、分からないことは問い返ししながら「この人が何を伝えようとしているのか」を分かろうと、積極的に聴くことが「傾聴」です。自分が望むような在り方を押し付けるのではなく、保護者の見方・考え方を理解し共感する。保護者が何を言っているかではなく、何が言いたいかを理解して共感する。そうすることで、保護者自らが、自分がどうしたらいいのかに気づいていくことにつながります。

「気持ちも聴く」と相手は自分に何が起きているのかが整理でき、安心につながります。そうすることで人に対する信頼が生まれてきます。困ったときに立ちあがる力をもち、助けてくれる場所を探せるようになると、自分で生きていく方向を見出すことができるのです。保護者がBeingからDoingへと変わり、動き始めます。

【参加者のアンケートより】

- 価値愛、他者実現愛の話を読み、今まで子どもを自分が思うようにさせたり、そんな姿になることを喜んだりする姿があったと振り返りました。その子がどのように育ちたいと思っているのか、どう変わろうとしているのかを意識して保育をしていきたいと思いました。
- 変えよう、変えたいではなく、変わってほしいという願いをもちながら保護者の願いを受け止め、自分で気づいて変わっていきけるようなサポートやかかわりをしていきたい。